

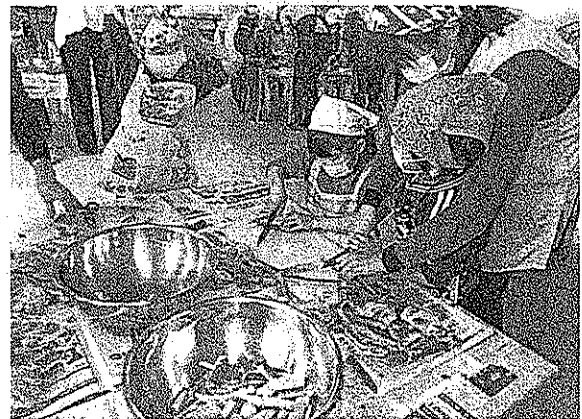
実施機関・団体名称	26 島根おおち農業協同組合	
住 所	〒696-0222 島根県邑智郡邑南町下田所277	
連 絡 先	TEL:0855-83-1802	FAX:0855-83-1373
E-mail	sasaki0351@jaoochi.jp	
担当者 職・氏名	企画管理部 組合員課 佐々木一彰	
食育体験活動 名称	「愛菜カレーの日」地産地消は島根おおちから	
目 的	管内全保育所を対象に地元農産物の食材を提供し、カレー作りを通じて「食」と「農」の繋がりを大切さを伝えることを目的に実施。	
実施年月日	平成25年7月23日	
対象者・人数	対象者 管内にある18の全保育所(園)の園児と保護者	人数 園児:751人/保護者: 21人/関係者:305人 (青年連盟・女性部・JA 職員)
連携した機関・団体の 名称		
内 容	JA島根おおち青年連盟は、女性部、JAと協力して管内全18保育所(園)で園児とカレーを作って食べるという食育イベント「愛菜カレーの日」を行いました。各会場では園児、保護者、関係者ら1200人が一斉に地元食材がたっぷり入った「愛菜カレー」を味わいました。当日は、青年連盟、女性部、JA役職員らが各会場を訪問し、調理や食事会の他、食材の説明や食育に関する紙芝居などを行いました。 提供した食材はJA島根おおち特産の石見高原ハーブ米や石見和牛肉、白ネギのほか、10種類以上。また、食材の一部には、春に青年連盟が保育所に配った野菜苗を園児らが育て、収穫したのもも使われました。	
実施しての効果 良かったこと	このイベントは「愛菜カレーを食べて地産地消は島根おおちから」をテーマに今回6年目を迎え、保護者の参加により若い世代の方々にもJA事業を身近に感じてもらい、「食」と「農」の重要性を次世代に伝える契機となっています。	
課 題	小中学校や行政など地域を巻き込んだ活動につなげたい。	



実施機関・団体名称	27 JFLまね西郷支所女性部	
住 所	〒685-0014 隠岐郡隠岐の島町西町八尾の1-62	
連絡先	TEL 08512-2-1431	FAX 08512-2-5889
E-mail		
担当者 職・氏名	JFLまね西郷支所女性部 部長 林千枝子	
食育体験活動 名称	お魚捌き隊 (紅いかさばき)	
目 的	隠岐で水揚げされた紅いか 秋から初冬にとれた紅いか 大きさ、他のいかと違う事を見せ、さわらせ、試食して絵に描く楽しさを覚えさせたい。	
実施年月日	平成25年1月15日(火)	
対象者・人数	対象者 隠岐共生学園年長組	人数 約 30人
連携した機関・団体の 名称		
内 容	ふだん普段見る事のない大きないか。全長が真赤ないかに全員がおどろき、内臓の大きさ、目の大きさも自分の手のひらいっぱい目玉にびっくり。すみの黒いもの、物おじせず、なでていた。調理の時は自分達で、紅いかフライを作り、コンロの前に立ち自分達で油で揚げて、満足した顔で試食していた。	
実施しての効果 良かったこと	園児達の物おじしない態度、挑戦するという行動を目にする事が出来、私達も教えられる事もありました。	
課 題	隠岐近海では、多種多様な魚が水揚げされているので、少し大きい魚にも挑戦して、又違う調理、加工もしてほしいと思う。	
感 想 意 見 等	隠岐近海で水揚げされている紅いかですが、大きいので処理の仕方等がわからず、出来ない為、島内での消費が少なく、島民にはあまりなじみがなく、敬遠されがちですので、もう少し講習の場を設けて、お母さん達と一緒に調理の場を作りたいです。	

食育体験活動 名称	お魚捌き隊 (カニ)	
目 的	隠岐で水揚げされた紅いか 秋から初冬にとれた紅いか 大きさ、他のいかと違う事を見せ、さわらせ、試食して絵に描く楽しさを覚えさせたい。	
実施年月日	平成25年1月15日(火)	
対象者・人数	対象者 隠岐共生学園園児、保護者、保育士	人数 約 200人
連携した機関・団体の 名称		
内 容	園児と保護者と一体になり、冬の味覚松葉ガニに挑戦 カニを捌き、カニの内臓を調べて処理の仕方を学び、カニの切り方、カニをどう調理して、何を作るかを学びます。	
実施しての効果 良かったこと	カニの捌き方、処理の仕方等わからない保護者もおられて、調理の仕方を少しではありますが、伝えることが出来ました。	
課 題	カニは少し値がはりますが、安く手に入った時、又魚がたくさんあった時、若いお母さん達に教えて、魚の美味しさ、魚には骨がある物を教えて食べ方を子供達に一日一回でも食べさせる様したいです。	
感 想 意 見 等	これからの私達の役目を思い、魚の調理の仕方、保存の仕方、加工等を一緒に勉強したいと思っておりますので、その場を作りたいと思っております。	

氏名			性別		年齢	5歳児
児童・生徒・学生の 場合学校名・学年記載	学校名	隠岐共生学園第二保育所			学年	
住所	市町村名	隠岐郡隠岐の島町下西166番地2				
参加した食育体験活動 の名称	カニカニパーティー					
参加年月日又は時期	平成25年2月13日(水)					
参加した食に関する 体験活動の内容	①Jカニの姿をよく見て観察する ②キッチンばさみでカニの足を切る ③水洗いする ④グラタン、汁、たき込みごはんを作る (野菜を切ったり、炒めたりする) ⑤調理したものをいただく ⑥カニの絵を描く					
感想	<p>○キッチンばさみで、足を切ることはむずかしかったが、JF西郷支所婦人部の皆様のご指導の下、柔らかく切りやすい場所を教えていただき、子どもたちも喜んでいました。</p> <p>○家庭では、単にゆがいて食べることが多いが、いろいろな調理法で、カニを食べることができ、とてもおいしくおかわりをしていました。</p> <p>○隠岐近海のいろいろな海産物を観察し、調理していただく体験を通して、この子どもたちに食の大切さやふるさと隠岐を愛する心が育つことを願っている。</p>					



実施機関・団体名称	28 島根県飲食業生活衛生同業組合	
住 所	〒690-0882 松江市大輪町420-1(島根県団体ビル)	
連 絡 先	TEL 0852-21-0808	FAX 0852-31-9789
E-mail		
担当者 職・氏名	理事長 石川 誓	
食育体験活動 名称	「お弁当のおかず作り&朝食を食べる」料理教室	
目 的	後継者育成授業の一環としての食育を通じた料理教室	
実施年月日	平成26年2月5日(水)	
対象者・人数	対象者 中学3年生 (4クラス全員)	人数 138名
連携した機関・団体の名称	大田市立大田第一中学校	
内 容	調理実習 玉子焼き、焼き飯、鶏のから揚げとポテトサラダ、酢の物ときんぴらごぼう	
実施しての効果 良かったこと	自分達で作る楽しさ、面白さを実感し、「家でも作りたい」と多くの生徒が言ってくれたこと。また、うす味に味付けをしたので、素材の味をいかすことが出来た。朝食を食べる意味を伝えた。	
課 題	昨年に引き続き2年目の料理教室。品目も2品増え充実したが、もう少し生徒主動で行いたかった。	
感 想 意 見 等	生徒たちの希望のメニューだったので、とても集中して取り組んでいた。食材の順番(料理手順)と味付けで劇的に変わる味に驚いたり、時折見せる調理師の技を見せることが出来良かった。(飾り切り等)薄味の重要性を伝えられた。	

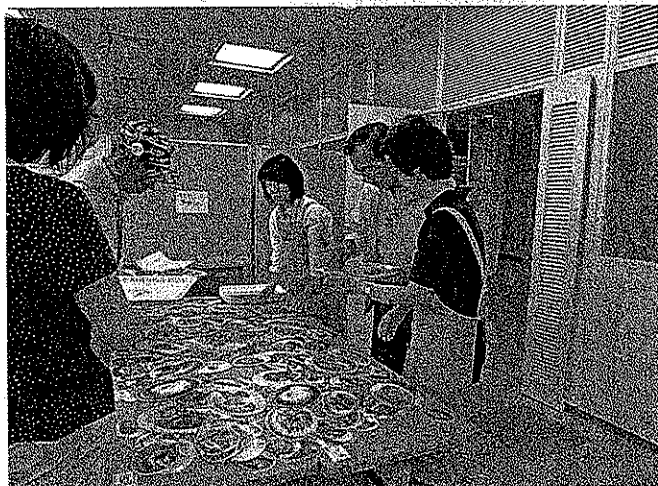
氏名			性別		年齢	15歳
児童・生徒・学生の 場合学校名・学年記載	学校名	大田市立第一中学校		学年	3年生	
住所	市町村名					
参加した食育体験活動 の名称	後継者育成事業 「お弁当のおかず作り&朝食を食べる」料理教室					
参加年月日又は時期	平成26年2月5日(水)					
参加した食に関する 体験活動の内容	調理実習 玉子焼き、焼き飯、鶏のから揚げとポテトサラダ、酢の物ときんぴらごぼう					
感想	<p>Ⓜ 久しぶりにチャーハンを作りました。具を炒めた後に卵を入れるやり方をはじめて知ってこのやり方もあるんだなと思いました。</p> <p>チャーハンは、どんな具でも作れるよとおっしゃっていたので、休日に家にあるもので作ってみようかなと思いました。食べたら家で食べるよりずっと美味しかったです。ごはんもパラパラしていました。</p> <p>すごく美味しく作ることができて良かったです。 不器用でもできました。とても楽しかったです。</p> <p>Ⓜ 今日の卵焼き、ヨーグルトを入れたのと、ケチャップを入れたのを作りました。 ★ケチャップ入り→うま味を出すため ★ヨーグルト入り→コク、まろやかさを出すため と教えていただき、驚くことがたくさんありました。</p> <p>フライパンも巻く回数も家と違ったけど、以外に上手くできたので、家でも挑戦したいと思いました。来年からは、お弁当の生活がずっとなので、今から少しずつ練習して、ちゃんとしたお弁当を毎日作れるようにしたいです。</p>					

実施機関・団体名称	29 食品衛生協会 松江支部	
住 所	〒690-0882 松江市大輪町420	
連 絡 先	TEL 0852-27-5808	FAX 0852-27-5915
E-mail		
担当者 職・氏名	副所長 藤井祥一	
食育体験活動 名称	みんなで朝ごはんクッキング講座	
目 的	子どもの朝食欠食をなくす為、保護者世代の食習慣を見直す事を目的とする。	
実施年月日	平成25年8月8日(木)	
対象者・人数	対象者 城北地区の親子	人数 25名
連携した機関・団体の 名称	松江調理師会	
内 容	一般親子25名と行政担当課8名と食品衛生協会16名、調理師会4名の参加で、 子共達でも出来る朝食メニューを一緒に作り、一緒に食事をし、朝食の大切さを 考えてもらった。 同時に子共、親もTPA検査をし、食器や手のよごれについても学んだ。	
実施しての効果 良かったこと	知識にはなったと思う。	
課 題	参加者の集め方(夏休みの期間でもあり)苦慮。	

実施機関・団体名称	30 仁多福祉会 7園調理担当者会	
住 所	〒699-1432 島根県仁多郡奥出雲町馬馳1324番地8 仁多福祉会布勢幼稚園内	
連 絡 先	TEL 0854-54-1294	FAX 0854-54-1294
E-mail	fusehoiku@okuizumo.ne.jp	
担当者 職・氏名	仁多福祉会 布勢幼稚園 稲垣 仁美	
食育体験活動 名称	食事マナーを楽しく学ぶための食育活動	
目 的	正しい食事のマナーを実際に演じて、子どもたちに伝え、気づいてもらう。	
実施年月日	2013年7月17日	
対象者・人数	対象者 3歳児、4歳児、5歳児	人数 22名
連携した機関・団体の名称	仁多福祉会 布勢幼稚園	
内 容	<p>奥出雲町内 7園の調理担当者会にて、各園で子どもの気になる姿などの問題点を挙げる中で、全園共通の問題点が見つかる。</p> <p><問題点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食器を持たない。 ・正しい箸の持ち方が出来ていない。 ・食事の姿勢。(ひじつき、足をバタバタ) ・ばかり食べをしている。 ・ふざける、大声を出す。 <p>子どもたちに伝える為には、どうしたら良いか7園の調理担当者で考え、自分たちが、先生と園児役になり、劇を通して、子どもたちに伝えた。</p>	
実施しての効果 良かったこと	食事のマナーについての劇を繰り返し見ることにより、子どもたちも自分たちで気づき、直そうとして、友だちと一緒に確認し合う姿がみられた。	
課 題	食事のマナーの問題は、今回だけで終わりではなく、継続の課題である。子どもを通して、家庭に発信できるような働きかけを今後もしていきたい。	
感 想 意 見 等	・子どもに分かりやすく、伝わりやすい劇を発表することができ、良かった。	



実施機関・団体名称	31 公益社団法人 島根県栄養士会	
住 所	〒690-0877 松江市春日町615	
連 絡 先	TEL 0852-27-6674	FAX 0852-27-8987
E-mail	shimaei@web-sanin.co.jp	
担当者 職・氏名	副会長 石倉 陽子	
食育体験活動 名称	あすてらすフェスティバル2013	
目 的	男女共同参画社会の実現に向けた意識の醸成を図る事業を行うことや、多くの県民のみなさんの出会いと交流の場を持つことが目的	
実施年月日	平成25年6月8日(土) 10:00~16:00	
対象者・人数	対象者 一般住民(来場者)	人数 約 60人
連携した機関・団体の名称	公益財団法人しまね女性センター・島根県・大田市石見銀山テレビ放送(株)・大田商工会議所・石見銀山農業協同組合他、県内の活動機関及び団体	
内 容	県民自主企画イベントに参加 料理カードを使い、食事バランスガイドによる食事診断や高齢者にも食べやすい工夫をしたメニュー(菌っぴーカミカミごはんでおいしく)の試食などを行った。	
実施しての効果 良かったこと	食事診断では参加者に、自分の食事を振り返ってもらう機会を与えることができ、食生活に関心を持ってもらうことができた。試食ではすめ、じゃこ、ごぼうなど普段高齢者が噛みにくき食品でも工夫すればおいしく食べることができるを体験してもらうことができた。この企画により、島根県栄養士会として食と栄養の情報提供が一般住民にできた。	
課 題	このような活動が現在では一部地域に限られてしまっているのを、今後は会員や関連団体と連携して島根県全域に広めていき、更に住民の食や栄養への関心を高めていくことが課題。	
感 想 意 見 等	このような体験をしていただいた参加者からは良い評価をもらっているのを、地道に企画を続けていくことや、いろいろな地域で開催することが県民全体の栄養改善、健康増進に繋がることだと思う。今後も県内の各地で機会を得てイベント参加していきたい。	



実施機関・団体名称	32 松江地区栄養士会		
住 所			
連 絡 先			
E-mail			
担当者 職・氏名	山本 敬子		
食育体験活動 名称	みんなで朝ごはんクッキング		
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・子供一人でも作れる朝ごはんを作ってみる。朝食の大切さを学ぶ。 ・朝食の大切さを学ぶ。 		
実施年月日	平成25年11月30日(土)		
対象者・人数	対象者 本庄小学校の親子	人数 10組	26名
連携した機関・団体の名称	本庄小学校PTA		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食についての講義 ・親子での調理実習 		
実施しての効果 良かったこと	かんたんで美味しいとよろこんで作り、食べてもらえた。「家でまた作る」と言ってもらえた。		
課 題	親が見守れず、親主導で作ってしまう班もあり、子供一人でも作れるという考えをつたえきれてなかった。		
感 想 意 見 等	親子クッキングのため、親が見守るではなく、手伝うという様子が見られた。		

氏名			性別	男・ <input checked="" type="radio"/> 女	年齢	44歳
児童・生徒・学生の 場合学校名・学年記載	学校名	本庄小学校			学年	全学年
住所	市町村名	松江市				
参加した食育体験活動 の名称	みんなで朝ごはんクッキング					
参加年月日又は時期	平成25年11月30日(土)					
参加した食に関する 体験活動の内容	<ul style="list-style-type: none"> ◦朝食についての講義 ◦調理実習 					
感想	<p>〈参加者の感想〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が家には、ないメニューでかんたんで美味しかったので、ぜひ家でも子どもと一緒に作ってみようと思います。 ・たくさんの野菜がおいしくたくさん食べられるのはすごくいいと思いました。 ・カレーピザトーストは、普段家でも残ったカレーを使ってすぐにできそうだったので、次回からさっそく試してみたいと思います。 ・うちの娘は、朝はなかなか気分がのらず、作って出しても「こんなのいらん」と言われることも多く、困っているのので、今回の教室で学んだ事を参考に頑張ります。 					



実施機関・団体名称	33 安来地区栄養士会	
住 所		
連 絡 先	TEL 0854-22-1244	
E-mail		
担当者 職・氏名	(介護老人保健施設 昌寿苑) 片山敦子	
食育体験活動 名称	「正しいはしの持ちかた」豆つまみ体験	
目 的	望ましい基本的生活習慣を育成し、生涯を通じた食育活動普及啓発に努める。	
実施年月日	2013/5/4(土)	
対象者・人数	対象者 まつり来場者	人数 参加者 子ども33名 大人29名
連携した機関・団体の名称	安来市主催 刃物まつり	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 箸を使い、皿にある豆を30秒でいくつ拾えるかタイムを競う。 ○ 次々に来場される挑戦者に、チャンピオンは入れ替わる。 	
実施しての効果 良かったこと	正しく箸が持てない子ども達も、チャンピオンのタイムを目指し、正しい使い方を教わりながら奮闘する姿が多くみられた。楽しみながら、正しく箸が使える喜びを味わってもらえ良かった。	
課 題	このような体験型の食育への取り組みは、子どもたちや家族の悩み。必要としていることが実感でき良かった。	
感 想 意 見 等	チャンピオンが次々にぬり替えられるゲーム性のおもしろさや、子どもたちに手本を見せてやる！と(メガネをかけ)転がる豆を必死につまむ大人の参加も多く、「正しく箸を持つ」ことへの関心の高さがわかりました。	

実施機関・団体名称	34 益田地区栄養士会	
住 所	〒698-0042 益田市駅前町17-1 益田市立保健センター	
連 絡 先	TEL (0856)31-0243	FAX (0856)23-7134
E-mail	akiko-fukuhara@city.masuda.lg.jp	
担当者 職・氏名	事務局 福原 亜紀子	
食育体験活動 名称	こどもクッキング教室	
目 的	近年子どもの食については、発達・発育といった健康の問題のみならず、家族形成、人間関係の育成、心の健康等、食の持つ多面的な要素を重視していく必要があると考えられる。子どもたちが心身ともに健やかに育つための環境整備の一環として、調理実習を通して食について考える。	
実施年月日	平成25年12月14日	
対象者・人数	対象者 益田幼稚園年長児親子	人数 54名(園児17名、保護者16名、園児の兄弟8名、栄養士会スタッフ11名)
連携した機関・団体の名称	益田幼稚園	
内 容	子どもと栄養士会スタッフで料理を作り、みんなで会食をする。子どもが料理をしている間は栄養士会会員が講師となり、保護者に対し食についての講演を行う。 献立:ご飯、クリスピーチキン、かみかみ和え、げんちん汁、(旬の果物)りんご 講演テーマ:「元気は食から」	
実施しての効果良かったこと	親がいないので、子どもが積極的に調理出来た。親自身も子どもが野菜を洗ったり、包丁を使ったりする姿を見て子どもの成長を感じられたようだった。また、自分で調理することにより、普段は苦手な食べ物も食べることができた。 保護者にとっても小学校入学に給食の話題を含めた食の情報提供ができた。	
課 題	会をスムーズに行うため、当日流れやレシピについてスタッフ間で確認をする必要がある。 献立については子どもの作業量、時間配分等を考慮し、より良いものにしていく必要がある。	
感 想 意 見 等	ともだちと一緒にすることができて楽しかった。 保護者のかたも田原栄養士の話聞いて勉強になった。 おうちでの食事を見直したい。 子どもたちにお手伝いをもっとさせないといけないと思った。(子どもはやりたいが危ないのでさせなかった。)	